

大阪湾に出現するクラゲには季節性があり、例えば、3月の春先にカミクラゲ、春～初夏にアカクラゲやミズクラゲ、夏にアンドンクラゲといった具合に順次姿を見せます。mini・mini水族館では今後、季節に応じたクラゲの展示を始めたいと思います。

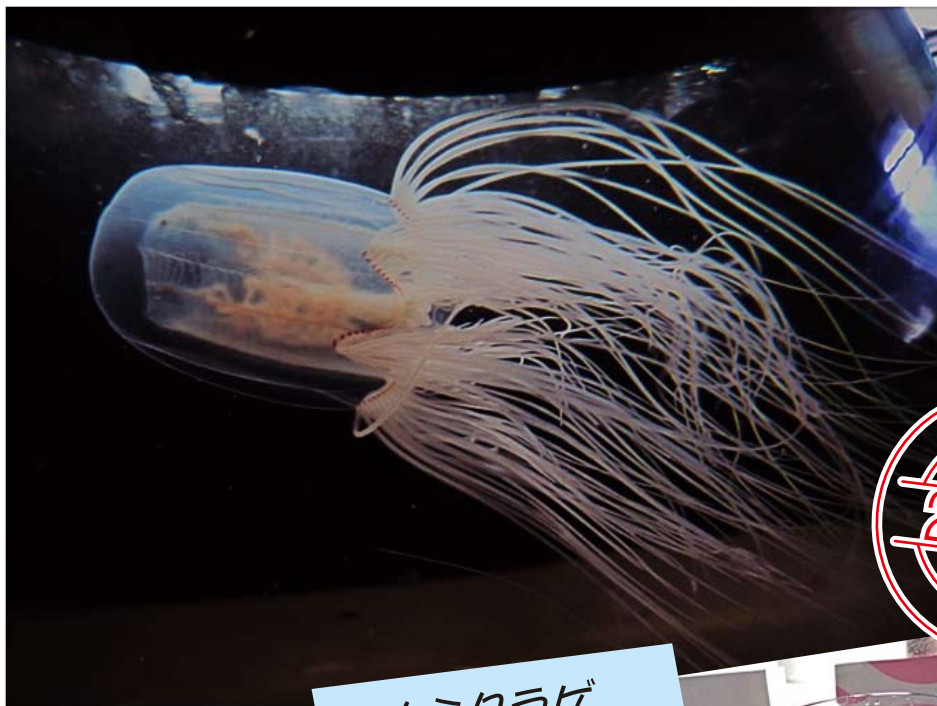


写真1

カミクラゲ

長い髪の毛のような多数の触手があることが名前の由来です。ただし、写真2の展示水槽では、右側のカミクラゲは触手が短かく見えます。これは長い触手が縮んだ状態なのです。



写真2

カミクラゲは、春の終わりには傘の高さが10cm近くにまで成長しますが、その後死んでしまいます。それまでに次の世代を残すため繁殖して放卵し、その後、海底でポリプと呼ばれるイソギンチャクのような姿になって過ごすと思われます。しかし、その様子は謎に包まれていてまだ発見されていません。季節限定になりますので、ぜひ今のうちにご覧ください。